

# 金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、大阪府豊中市立庄内南小学校の谷本千保教諭が、教職大学院で学び実践研究を行った、金融教育のための基礎教育とも言える取り組みについてご紹介します。

## 学校教育で身につけさせたい金融教育

「モノやお金を持っていることが、自分と周りとの人間関係を決定付ける重要な意味を持つ」。谷本千保教諭は、小学校での生活指導を続けるなかで、金銭に絡む児童の問題行動の背景にこうした考え方が潜んでいると感じたと

います。

流行しているトレーディングカードゲームでは、カードをコレクションするだけでなく、その中の少しのレアカードを手に入れるために大量のカードを買わなければならない仕組みができあがっています。収入のない児童がカードを手に入れるには親のお金が必要ですが、欲しいカードが全部買えるだけのお小遣いを貰えるとは限りません。児童の間では、一緒にカードゲームで遊ぶために、お小遣いが足りない子にカードを買ってあげたりお金を貸りたりといった状況にまで発展していくのだそうです。「仲間が欲しい」「仲良しと一緒にいたい」「友

だちに良く見られたい」という子どもたちの心理が、お金が介在することで、「親にうしろめたい」「お金をもらった借りたりしたくない」という葛藤とともに人間関係を複雑にしていきます。

谷本教諭は、そんな児童の現実を知り、金融教育の入口として、道徳教育や心理学の側面から「自分はお金とどう向き合うのか」にアプローチする必要があると考えたと言います。そこで、金融教育の単元開発を目標に、学校を休職して兵庫教育大学の教職大学院へ進学。2年間の研究と実践により、成果をまとめあげたのが、今回の「マネー・コンピテンシーの育成を目的とした単元」です。

## 「お金」を考える実践授業

谷本教諭は2009年度から2010年度にかけて、同単元を高



# マネー・コンピテンシー(お金に関する総合力)を育む単元開発

大阪府  
大阪府豊中市立庄内南小学校  
谷本千保教諭

単元計画（高学年用 全10時間）			
学習過程	学習活動	学習形態	学習場面
【Ⅰ】 意識化 2時間	① ブレーン ストーミング	“お金”について考えよう	
		個人	概念探求
		グループ	概念共有 概念図作成
【Ⅱ】 焦点化 1時間	② 定型知 習得	“お金”の役割を知ろう	
		グループ	帰納的推理
【Ⅲ】 具体的 思考 5時間	③ 暗黙知 教養形成 (1時間)	“お金”に学ぼう	
		個人	暗黙知 教養形成
		グループ	帰納的推理
		個人	価値判断
	④ 意思決定 価値判断 (2時間)	“お金”と“ひと・社会”を見つめよう	
		グループ全体	疑似体験
		個人	価値習得
		グループ 全体・個人	価値形成
	⑤ 価値自覚 (2時間)	“わたし”と“お金”を見つめよう	
		グループ 全体・個人	価値の明確化
【Ⅳ】 系統化 一般化 2時間	⑥ 価値形成	“わたし”と“お金”を創造しよう	
		個人 全体	演繹的推理 価値の形成 価値の交流

学年用の10時間の学習活動にまとめ  
上げました。実践研究の場は、6年  
間の勤務の後、大学院進学のために  
休職した前任校の大阪府豊中市立万  
根山小学校。

単元は、お金について知っているこ  
と、関係することを書き出し、意見を  
出し合う「お金について考えよう」。  
お金の役割や機能を学ぶ「お金の役割  
を知ろう」。お金に関する諺などから

考えさせる「お金に学ぼう」。教育  
ゲームによる「お金と人・社会を見つ  
めよう」。宝くじの高額当選者に配ら  
れるというハンドブックの中身を考え  
る「わたしとお金を見つめよう」。最

■ゲーム後の心理的感情

(数字はアンケートでの回答数)

得たもの		得たもの		失ったもの	
努力	12	怒り	9	冷静	19
喜び	10	恨み	8	楽しさ	10
やる気	10	憎しみ	6	自分	8
嬉しさ	9	悪口	4	体力	6
お金の大切さ	7	だます	4	笑顔	6
決断力	6	顔	4	態度	5
楽しさ	4	ケンカ	3	力	4
必死さ	4	最悪	3	気力	4
協力	4	ムカツキ	2	寿命	4
知恵	4	暴力	2	ゲーム心	3
大変さ	3	大変さ	2	優しい言葉	3
警戒心	2	態度	2	考える	2
使い方	2	争い	2	気持ち	2
良さ	2	言葉	2	売ろう	2
工夫	1	もめ事	1	怒り	2
挑戦	1	盗む	1	周囲	2
気力	1	苦勞	1	落ち着き	2
満足感	1	無謀	1	信頼	2
達成感	1	殺意	1	記憶	2
共有	1	欲望	1		
バカ力	1	喧噪	1		
元氣	1				

後が、自分自身のためのお金のハンドブックを作成する「わたしとお金を創造しよう」です。

授業の「山場」となるのは教育ゲームです。これは本来、世界の貿易を疑似体験することで世界経済の基本的な仕組みを学ぶゲームですが、谷本教諭はここで、お金によって巻き起こるさまざまな事象を疑似体験し、子どもたちの心に生じた感情や児童同士の人間関係の変化を記録させ、振り返る実践を行いました。「グループ対抗でどこよりも儲けて勝負」という悲喜こもごものゲームに夢中になった後の児童の感想を見ると、「努力」や

「喜び」「やる気」などの肯定的な記述があった反面、「怒り」「恨み」「だます」「悪口」といった他人に対する否定的な感情や、「冷静さ」「楽しさ」「自分」「笑顔」などを失った自分への否定的な感情が芽生えていたことが窺われました。実際、6年の卒業時に5年時の授業を覚えているかどうかアンケートを取ったところ、7割以上が「意識することがある」と答えたとい

また、谷本教諭の分析では、その心理的背景として「関係」「拝金」「悲観」といったキーワードが明らかになっていったといえます。

■児童の感想

●ゲームをしている途中は、冷静さや人に接する時の態度がちゃんとできませんでした。でもそのかわりに、やる気や満足感などを得られたのでよかったです。

●ただのゲームで、ただ子ども銀行のお金のために、なぜこんなに必死になっていたのだろう。けど、みんな同じでした。みんなも冷静さを失っていたと言っていました。お金はにせものお金でも、こんなに人を変えらると思うと、とてもこわいと思いました。

●コンパスを貸してといわれてもいつもなら「いいよ」と言うのに、友だちだということを忘れて、ライバルみたいに思えて「いいよ」と言いませんでした。ゲームが終わると結構お金があったけど、班の中ではすごくケンカをしていて、お金ってすごいなと思いました。

●ゲームとっていても、怒りは全くおさまりませんでした。その時思いました。お金は良い事もあるけど、怖い所もあると。

●私はゲームだけど、すごく燃えました。大人はお金を稼ぐのに、こんなに大変なんだなと思いました。だからお金を大切にしたいと思いました。私たちの班は、終わってから、最初に8000円も入っていたことに気が付き、お金はあせらず、確認しないといけないなと思いました。

●「5円安くしてもらえるトランプ」と言われて買ったら、意味がないことが分かって、インチキとさげんだけど、お金を返してくれなかった。「おまわりさん!」とさげんだら、お金を返してくれた。ゲームが終わってから、「将来ぼくはサギにあうな」と思いました。



## 子どもたちの心に芽生えた 「自分のハンドブック」

「友だち付き合いは、お金が必要だと思ふことがよくある」「お金やモノをあげると、自分に好意を持ってくれると思う」といった関係の尺度、「お金やモノをたくさん持つっていると、持っている人よりすごいように思える」「お金をたくさん持っている」と、自分に自信がわいてくる気がする」といった拝金傾向、「お金やモノを友だちが持っているのに、自分が持っているのと情けない気持ちになる」「友だちが持っているのに、自分だけ持っていないと仲間はすれにされそうな

気がする」といった悲観的な思考。谷本教諭は「ゲーム」に関するアンケート結果から、こうした子どもたちの心理的な側面が、生徒指導上の問題行動に繋がっていくことを報告しています。

後半の授業ではこの「ゲーム」の経験を踏まえて、「お金のつながり、お金において大切だと思ふことを元にキャッチコピーを作らせる」予定が、児童からの要望で、「自分たちも宝くじの高額当選者に配られるような『自分のハンドブック』を作ろう！」という気持ちに発展していきました。また、この研究授業の様子は「保護者だより」を通じて児童の様子を含め詳細に報告しました。保護者からは「お金の授業が、心の授業」として行われるとは意外だった」「親子でお金について話す良い機会になった」などの感想が寄せられたといえます。

## 具体的な金融教育の前に 「お金について」学んでほしい

谷本教諭はこの授業で最も考慮すべきポイントを「児童の家庭間の経済格差など、各々の家庭環境の違いを意識

させることなく、児童全員が同じ目線で気持ちを共有できること」だと言います。それが、ゲームや諺などを媒介させることで自分の率直な意見が言える心理学的なアプローチであり、保護者が「心の授業」と評した所以でもあるようです。

谷本教諭はもともと経済学部出身で社会科学を専門分野とする小学校教員です。金融教育に関する知識や素材集めには全く苦労しないはずの谷本教諭が、今回2年がかりでこの単元開発に取り組んだ理由は、具体的な金融教育に入る前に「お金について学ぶ」必要性を現場で痛感したため。多くの実践が「お金というものを知っている前提で進められている」ことに課題を感じたからだと言います。

今回のような社会科と道徳教育をミックスさせた単元開発にあたっては、谷本教諭ならではの視点が活かされており、オリジナルでありながらも汎用性の高い授業として評価されています。そして、「明日すぐに使える授業だと思いません。ぜひ多くの小学校で参考にして、実践してもらえたら」と谷本教諭は話しています。

## 金融教育の現場レポート

## マネー・コンピテンシー(お金に関する総合力)を 育む単元開発

大阪府  
大阪府豊中市立庄内南小学校 谷本千保教諭